

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



前号6号では、スマホの使用について考えました。今回も、川島隆太教授の著書から学びたいと思います。

スマホを使っていると、どうしても使用時間は長くなります。中でも、長い時間動画を観たり、ゲームをしたりすることで、脳への影響があるのではないという内容が書かれています。スマホを使っている中でも、1時間程度に抑えている子は、生活の様々な場面で、自分で考え、自分の判断で自己決定をしている子たちなのだと思います。将来の生活でも、いろいろな意味で成功しそうな、期待できる子たちなのではないでしょうか。

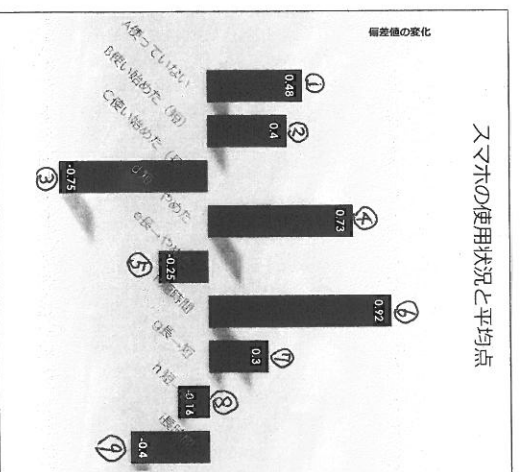
今回は、通信アプリとして利用者の多い、「LINE」の使用時間と家庭学習の時間、成績との関係についてご紹介します。

スマホの使用時間では、1時間以下の子たちの成績に何か期待の持てる兆候が見られました。「1時間の肩」が見られました。ところが、ラインについては、使用時間が長くなればなるほど、成績は悪く、1時間以下に抑えている子の成績が良いという傾向は見られていないのです。

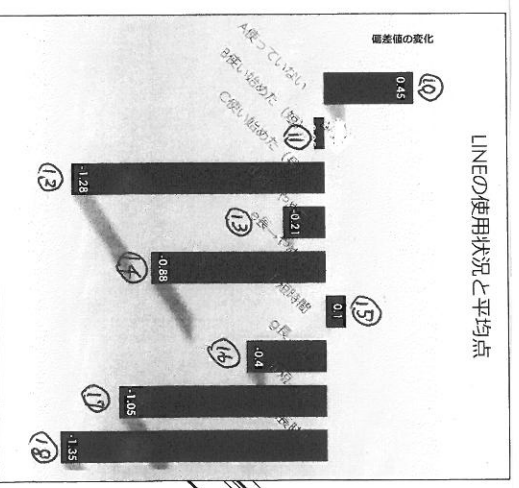
それどころか、ラインを使っていた子は、勉強に差し障りがあると知って、使うのをやめても、成績が戻らないというのです。スマホまたはラインの使い方を変えた子たちの偏差値の伸び方を示すグラフです。

『スマホが学力を破壊する』川島隆太（集英社新書）

スマホの使用状況と平均点



LINEの使用状況と平均点



- ① スマホ・ライン使用なし
 ② スマホ使用を始めた
 ③ 使っていないかったスマホを使い始めた
 ④ 短時間使っていたスマホをやめた
 ⑤ 長時間使っていたスマホをやめた
 ⑥ 短時間のスマホを続けている
 ⑦ スマホの時間を短くした
 ⑧ スマホの時間を長くした
 ⑨ スマホを長時間続ける
 ⑩ スマホ・ライン使用なし
 ⑪ ラインを始めた(短時間)
 ⑫ ラインを始めた(長時間)
 ⑬ 短時間のラインを続ける
 ⑭ 長時間使っていたラインをやめた
 ⑮ 短時間のラインを続ける
 ⑯ ラインの使用時間を長くした
 ⑰ ラインの使用時間を長くした